

授業概要

私たちは社会という場や関係を生きているが、必ずしもその実態を把握しているわけではない。時には根拠のないイメージや思いこみ、また流布された虚像などを事実と取り違えてしまっていることもよく散見する。自らが生きる場や関係が、実態としてどうなっているのか、それを確認するために有効なのが社会調査である。社会調査とは関係構造としての社会を明らかにすることが第一義だが、それに終始するばかりではない。自らの問題意識に根ざした調査は、調査する側の認識を新たにし、一人ひとりが生きる現実を拓いていく可能性を秘めた創造的な営みでもある。本講義においては以上を主なテーマとして社会調査の概略を学習する。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	社会調査とは何か
第3回	社会調査の実例（歴史と現状）
第4回	何を明らかにしたいのかー目的と方法
第5回	基礎資料の収集
第6回	調査の設計 1ーテーマと変数(独立変数、従属変数)
第7回	調査の設計 2ー仮説の立て方
第8回	調査票の作成とサンプリング
第9回	実地調査のためにー現地との連携、ラポール
第10回	分析と報告
第11回	量的調査の限界と質的調査の意義
第12回	フィールドワーク
第13回	聞き取り調査、参与・非参与観察
第14回	調査結果の取りまとめ
第15回	社会調査という権力ー社会調査倫理綱領
第16回	定期テスト

到達目標

疑問を持ち、それを調べ、自分なりの答えを出すという、今後の社会においては必須となる素養を養成する。様々な調査手法や知識も重要だが、それを使いこなすための最も重要な資質として、自身の問題意識を形として提示し、他者と共有できるようになるというスキルを身につけることを目指す。

履修上の注意

この科目は社会調査の基礎を重点的に扱うため、実際の社会調査をするためには他の関連科目を受講する必要がある。また、毎回の講義は必要最低限の知識を凝集しており、それを自分なりに主体的に展開しておくことが求められる。講義内容を消極的に「受ける」のではなく、積極的に「考える」ことが求められる。

予習復習

新聞やニュース報道などにアクセスし、興味のあるニュースについて要約し、自分の意見をまとめることを毎回課す。特に、調査結果の報道などには優先して目を通すことを期待する。提出された課題について、希望者には添削の上返却する。提出課題はコピーし、手元に残しておくこと。

評価方法

定期テスト 40%、調査プラン作成 30%、平常点（小テスト数回、毎回のリアクションペーパー、毎回の課題） 30%。リアクションペーパーは内容によって平常点に加算。出席点はつけないが、1/3の欠席で単位取得不可。遅刻 3回で欠席 1回と換算。

テキスト

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配付する。